

急性胆管炎で胆汁中腸球菌陽性となる患者の特徴と臨床経過に関する研究

1. 研究の対象

2022年4月～2024年3月までに急性胆管炎に対して ERCP にて胆汁を採取し培養を行った患者さん

2. 研究目的・方法

急性胆管炎では胆道ドレナージの際に胆汁を採取し、その培養結果を抗菌薬選択の一助としています。胆汁培養では近年耐性菌で話題になっている、腸球菌も比較的多くの頻度で培養されます。ただし、ガイドラインでも腸球菌陽性例の取り扱いに関しては十分解っていません。今回我々は、胆汁中腸球菌陽性となる患者さんの特徴と、そのことが臨床経過にどのように影響しているのかに関して検討を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・患者背景：性別、年齢、病名、合併症、胆管炎重症度、胆道ドレナージ歴、胆管スtentの有無、乳頭処置の有無
- ・細菌検査所見：細菌名、感受性結果
- ・臨床情報：使用抗菌薬、解熱までの期間、白血球数が正常化までの期間、CRP 値が最大の半減になる間の期間、抗菌薬投与期間、退院までの期間、30日以内の胆道感染の再燃

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市立総合病院 消化器内科 住所：静岡県磐田市大久保 512-3 電話：0538-38-5000

研究責任者：磐田市立総合病院 消化器内科 金子淳一